

みえ発！ボラパックⅠ・Ⅱの違い

平成23年4月より運行を始めた「みえ発！ボラパックⅠ」は、平成24年より「みえ発！ボラパックⅡ」と名称を変えて約2年半継続しました。現地の状況に合わせて、活動ニーズはもちろんボランティアの募集形態や運行スケジュールなども移行していきましました。「みえ発！ボラパックⅠ」と「みえ発！ボラパックⅡ」の特徴と違いについて検証します。

みえ発！ボラパックⅠ（全36便） 平成23年4月～平成23年11月

●7～10日間 行程●

主に7～10日間の行程で運行しました。長期の滞在には、参加するための苦労も大きい反面、共に活動するチームの絆を深める期間となりました。

●リーダー・サブ リーダーによる チームづくり●

スタッフ添乗等がなく、各便のメンバーから選ばれたリーダー、サブリーダーによる完全自己組織化でのボラパック運行でした。

●個人ボランティア のみの募集●

個人ボランティアのみを対象とした募集を行っていました。個々に集まったチームが帰る頃には強い団結力を持っていました。

●現地ニーズを 中心とした活動●

現地ボランティアセンターの運営補助から開始し、現地の方々から寄せられるニーズを中心に活動しました。がれき撤去等の力仕事が多くありました。

●18歳以上の み参加可能●

当初は、危険を伴う作業が多いため、ボラパックの参加にあたり18歳以上（高校生不可）の年齢制限を設けました。

●宿泊施設 の統一●

ボランティアセンターに併設された武道場に無料で宿泊することができ、チームで寝食を共にしました。チームミーティング等も円滑に行われました。

みえ発！ボラパックⅡ（全36便） 平成24年4月～平成25年9月

※ボラパックⅡの試行として特別便（平成23年11月）を運行

●4日間行程●

主に週末を挟む4日間の行程で運行しました。参加しやすいメリットと、山田町を知る時間が短いデメリットから、第3便より「まなびの時間」（P18～）を導入しました。

●スタッフ添乗●

過密なスケジュール調整と多様な活動コーディネートのため、スタッフ添乗と現地スタッフによる全面サポートの中、活動いただきました。

●団体ボランティア 中心に募集●

ボラパックⅡでは、サロン活動を中心に活動しました。様々なプログラムが必要となるため、活動団体を中心とした募集方法に移行しました。

●独自プログラムを 中心とした活動●

活動団体から提案されるプログラム、個人ボランティアに対応した独自プログラムを中心にサロン活動、現地ニーズによる活動等を行いました。

●年齢制限 なし●

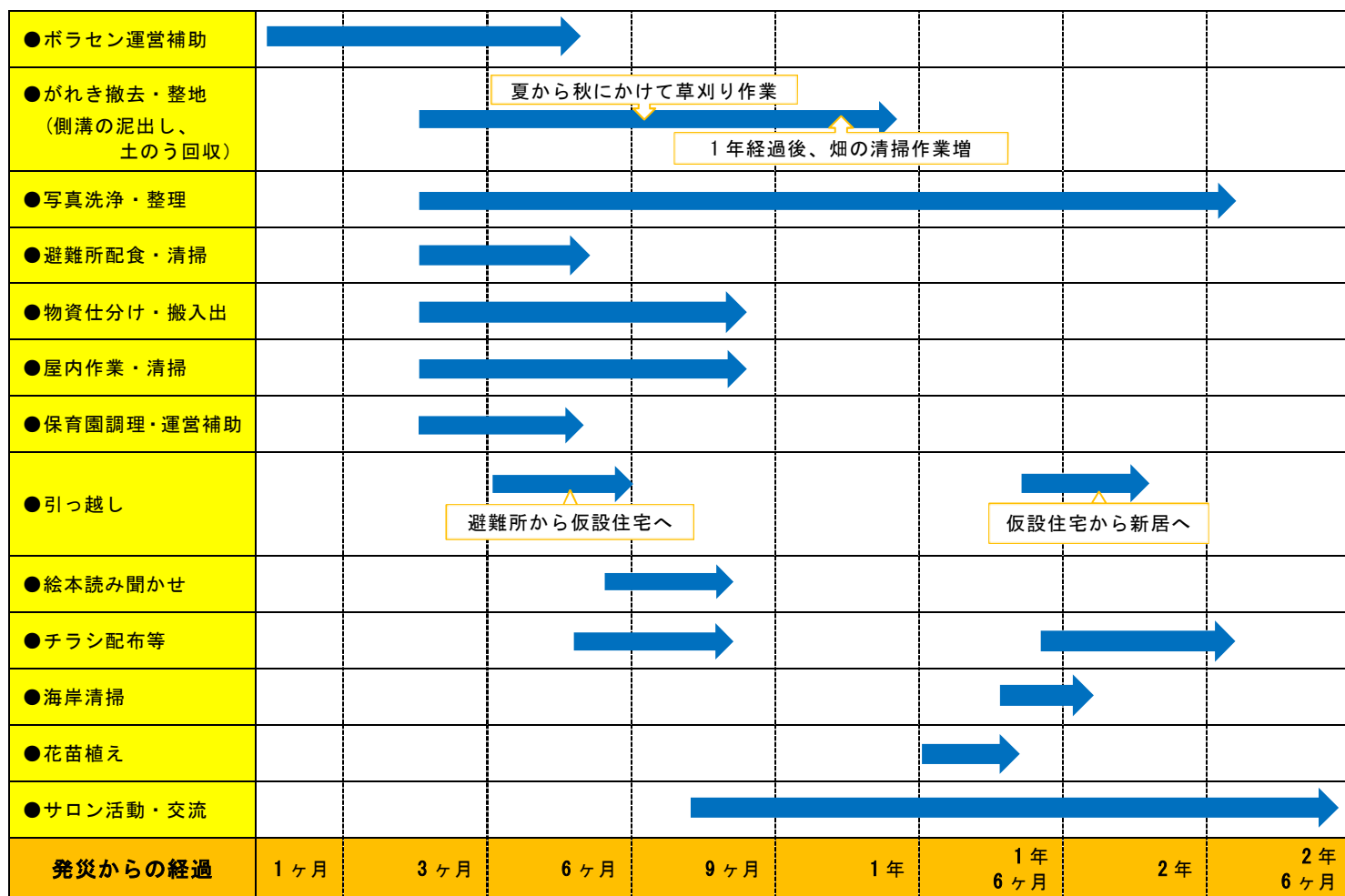
保護者の同行の場合に限り未成年も参加可としました。年齢制限がなくなったことにより、家族での参加が目立つようになりました。

●宿泊施設 の選択●

有料宿泊施設での宿泊が中心となりました。平成24年は無料宿泊所も選択可とし、他のボランティア団体との交流もできました。

みえ発！ボラパック活動傾向

「みえ発！ボラパックⅠ」～「みえ発！ボラパックⅡ」の活動期間中、現地の状況の変化と共に活動ニーズも移り変わっていきましました。みえボラで行なった活動を基に、時間の経過と共に活動傾向を検証いたします。



●ニーズの変化

・ボランティアセンター運営補助

発災当初は住民の方の「ボランティア」の認識が薄く、ボランティアセンターの存在意義やシステムを理解していただく時間が必要でした。みえボラが活動を始めるにあたりノウハウのあるボランティアを集め、殺到するボランティアの対応をするためボランティアセンター運営の人的支援を行ないました。

・ボランティア単体で行う活動

最も長期に亘って活動したがれき撤去・整地作業は、家財清掃から始まり泥出しや草刈りなど、時期や季節ごとに細やかに内容が変わりました。避難所運営時には物資に関する活動やお風呂清掃など、避難所閉鎖までお手伝いしました。また、海岸清掃や畑清掃、花苗植えなどの活動を行なったのは発災から1年以上後となり、写真洗浄は発災直後から現在も継続されています。

・地域の方と交流する活動

発災から半年が過ぎた頃、つながりのできた町の方々からの声が少しずつ届くようになり、みえボラ独自のニーズとして町内の小学校・幼稚園・保育園にて「絵本読み聞かせ」活動を開始しました。その後、特別便として初めて開催したサロン活動がボラパックⅡの形式が成り立つためのきっかけとなりました。季節に合わせたプログラムや、家でも個人個人が楽しめるプログラムなど、参加される方々の声にヒントをいただきながら活動を進めました。

●問題点

・体調管理

ボランティアとして活動する上で留意すべき点として、体調管理があります。みえボラの心構えとして「自分で体調を見極める」というお願いをしていました。特にボラパックⅠでは、慣れない環境や危険が伴う作業が多い中で約1週間連日の活動が続き、体調不良や疲労が原因の怪我や事故などもありました。体はもちろん、心にも負担をかけないようにチーム内で声を掛け合って「休むこともボランティア」という意識を持って活動していただきました。

・天候の影響

屋外作業が続く発災後、天候に左右され作業に遅れが出ることが多々ありました。その影響により作業の引き継ぎにも支障がでることがありました。特に梅雨の季節や台風が多い時期は、屋外作業ができずボランティアセンターで待機となってしまうこともあり、屋外作業のニーズが重なるタイミングでの天候の影響は大きくありました。また、夏の炎天下、秋冬の寒波などによる体調への影響もありました。

・ニーズとボランティアのバランス

ボランティアの多く集まるタイミングでたくさんのニーズが上がっていないこと、人数がたくさん必要なタイミングでボランティアの数が減少してしまうことも多々ありました。また、活動内容や会場、参加者とボランティアのバランスは、活動を行なう上で重要なポイントでした。